

さんさんと日差しを受け、尻別川の水面がきらめいています。後志の夏の風景も鮮やかさを増しています。山と、海と、田園と一風景とともに美術館をめぐりませんか。

展覧会のお知らせ

常設展示

「小川原脩 童話の光景 アニマルワールド」9月29日(月)まで
動物たちがそれぞれの言葉で自由な会話をし、物語が繰り広げられているかのような小川原作品に焦点をあてました。

企画展示

「しりべしミュージアムロード共同展ミュージアムロード百科事典【初版】」8月24日(日)まで

後志の美術館・文学館5館の共同展で、ミュージアムロードゆかりの作家とその作品を事典のように分類・説明します。当館では「動物事典」として、それぞれの作家が注目した動物たちが登場する作品を紹介しています。「第56回麓彩会展」

昭和38年、古い公民館の一室から始まった麓彩会展。自由な雰囲気、作家たちが作品を持ち寄り、終わればまた持ち帰ることを繰り返しながら、この土地の芸術文化の一翼を担ってきました。

会期：8月30日(土)～9月29日(月)

ロビー展示 ※観覧無料

北口さつき「Four Seasons 夏」8月24日(日)まで

「じゃがまつり うちわコンクール」入賞作品展示 8月8日(金)～17日(日)

アート・イベントのお知らせ

土曜サロン

8月9日(土) 「ナポレオンの時代—ダヴィッドと新古典主義」

8月23日(土) 「ロマンへの憧れ—ドラクロワとロマン主義」

いずれも

時間：14時～15時 講師：当館館長 柴 勤 会場：美術館映像ルーム (聴講無料)

ミュージアムコンサートのお知らせ『音楽とワインの夕べ』

日時：9月6日(土) 18時30分から

場所：小川原脩記念美術館 倶知安町北6条東7丁目1

出演：柴 瑞穂さん(ピアノ)

料金：一般1,300円、友の会会員1,000円

夏休み中に挑戦!

第7回小川原脩記念美術館絵画コンクール「ふるさとを描こう」

皆さんそれぞれが思い描く「ふるさとの風景」を、自由に描いてください。たくさんのお作品をお待ちしています。

応募期間：9月19日(金)まで(締め切り必着)

応募資格：小樽市を除いた後志管内の小学生

応募の決まり：四つ切画用紙に水彩かクレヨンで描かれた未発表作品を応募してください。応募はひとり1作品までとします。

お問い合わせ：小川原脩記念美術館 (☎ 0136-21-4141)

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館

☎ 21-4141 FAX 21-4142

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/

倶知安風土館

☎ 22-6631 FAX 22-6632

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/kutchan-huudokan/

開館時間は9時～17時

(入館は16時30分)

8月の休館日 19、25～29日

木田金次郎美術館

☎ 0135-63-2221

開館 20周年記念特別展示

木田金次郎と「絵の町・岩内」

会期：11月3日(月・祝)まで

西村計雄記念美術館

☎ 0135-72-2525

夏から秋の展覧会

「西村計雄の世界遺産めぐり」

会期：10月13日(月)まで

トライアート七タダヨ!

星空観察に挑戦 8月7日(木)

荒井記念美術館 ☎ 0135-63-1111

ピカソ特別展「ピカソ大百科」開催中

■有島記念館 ☎ 0135-44-3245

「夕張市美術館コレクション展」

会期：9月7日(日)まで

海と山と田園と -ミュージアムロード情報-

フリーマーケット開催

■日時/8月16日(土)

10時～14時(雨天中止)

■場所/倶知安風土館側前庭

(アプローチ) 周囲

左はサンモリッツにて
右はアスプリツにて



福島世二

お願ひいた
します。

のご協力を
う、皆さま

だけけるよ
しんでいた

民の方に楽
ますが、町

労ではあり
ます。ご苦

大変暑い中
準備・運営

について、

ほかのお祭
りやイベン

ンについて

も続けてい
ければと思

町長室から

強い日差しが降り注ぐ季節となり、いよいよ倶知安の夏も本番を迎えようとしています。子どもたちも夏休みに入り、外で元気に遊ぶ姿をよく見かけるようになります。

6月30日～7月9日の日程で、姉妹都市スイス・サンモリッツを訪問してまいりました。サンモリッツへの公式訪問は実に14年ぶりです。姉妹都市50周年を迎える年に、19名の町民の皆さまと共にサンモリッツを訪問できたことは、これからの倶知安・サンモリッツにとって大きな一歩となったことでしょう。今のような魅力的な姉妹都市交流を、これから先も続けていければと思っております。

8月は夏のイベントが目白押しです。中でも一番大きなお祭りであるくつちゃんじゃが祭りが8月2日、3日に開催されます。52回目を迎えるじゃが祭り。今年もさまざまな催しが企画されておりまして。夏の大イベントを、心行くまで楽しんでいただければ幸いです。

ほかのお祭りやイベントについても、大変暑い中の準備・運営になるかと思っております。ご苦労ではあります。市民の方々に楽しんでいただけるよう、皆さまのご協力を願ひいたします。

感動一点 の場

『あひる』

制作年不詳 小川原 脩 画

「個と群れ」は小川原脩の作品を代表するテーマのひとつであり、小川原はさまざまな動物の群れの姿を描いている。前進し迫ってくる馬たち、威嚇し、怖れ、苦しみ折り重なる無数の犬たち、いっせいに空へと飛び立つ大白鳥…。

そのような動物たちが登場する中、この作品はあひるの群れである。いったい何羽いるのだろう。ガーガー、クワクワと、にぎやかな鳴き声が聞こえてきそうである。一羽を先頭に散らばりそうで散らばらず、一団はじりじりはこちらに迫ってくる。アジアの各地では、家禽である何百羽という家鴨^{あひる}を、餌を食べさせるために水辺まで大行進させて連れてゆくのだそうだ。この作品には、制作年とサインが記されていない。おそらく、小川原が中国やインドへの旅で目にした光景を描いたもので1980年代の作と思われる。



ふるさと探訪

377回

—この地域を代表する植物—



わが町の樹はイタヤカエデで、町の花はキバナシャクナゲである。残念なのだが、これらの植物はこの地域を特徴づけるとはちょっと言い難い。この地域の地誌や環境と強く結びついた植物はないものか。で、行き着いたのがチシマザサ（俗称ネマガリダケ）。この地域のどこにでも見られるが、その全国的な分布は東北以北の多雪地帯に限られる。新芽は食用に、かつては稗（茎のこと）がカゴや雪踏みを編む材料として利用されてきた。

ササの仲間には日本列島に300種以上が分布し、性質や形のバラツキがとても大きい点から、さかんに新しい種を生み出しているグループだと考えられている。チシマザサについても、葉裏の毛のあるなしでチシマザサとクマイザサとに分ける人もいれば分けない研究者もいる。

この仲間は、一本一本の稗が互いに地下茎でつながっている。つながった稗は同じ株とすると、いったいどの

範囲までつながっているのだろう。ある専門家は、ニセコ山系全体が1つの株で覆われている可能性すらあると言ったが、これはちょっと疑問。と言うのは、ニセコ山系で見られるチシマとクマイが同じ株とは思えないからだ。でも一山をおおうチシマやクマイが、それぞれ1株からなることは多いにあり得ると思う。

ササの仲間が広い範囲で一斉に開花し枯れることは、天変地異として昔からしばしば記録にあるが、それは株が余りにも巨大なためだ。このような繁殖は言わば大バクチで、実際には、保険として毎夏に株のごく一部に少しずつ花を咲かせてもいる。ササも考えているのだなあ。そう感じる。